

まちの安全に貢献・防犯資器材贈る



JA筑紫は1月5日、春日、筑紫野両警察署で、資器材の贈呈式を開きました。

春日署では、南島彰夫署長や、JAの白水組合長などが参加。春日地区交通安全協会と春日・大野城・那珂川防犯協会へデジタルサイネージ1台を贈りました。警察署入り口やキャンペーン会場に設置し、二セ電話詐欺や交通事故防止等の啓発に役立てられます。

JAは、特別金利のマイカーローンを販売し、飲酒運転の撲滅、交通事故防止を組合員や利用者へ呼びかけます。また、ローン収益の一部を使い、安全安心まちづくりに役立つ資器材を関係団体へ贈る取り組みを10年以上続けています。

今回は2020年10月1日～21年5月31日まで販売した「安全運転推進マイカーローン」の収益の一部を使い、贈呈しました。

白水組合長は「安全安心なまちづくりに役立ててほしいです」と話しました。

南島署長は「地域の安全を守るため大切にに使わせていただきます」とお礼を述べました。

防犯活動に貢献し表彰受ける



JA筑紫は1月5日、防犯功労団体に選ばれ、春日警察署の南島彰夫署長から感謝状を受け取りました。

JAは青色パトロール活動、各金融店舗職員によるみまもり活動、二セ電話詐欺防止や性犯罪抑止の啓発活動など、日頃から地域の安全安心の確保に大きく貢献したことが評価されました。

JAの白水組合長は「今後も組合員や地域の方が安心して暮らせる地域づくりに貢献していきたいです」と話しました。

農機10台初荷 安全第一に



JA筑紫は1月11日、筑紫野市のJA農機センターで、2022年農機初荷出発式を行いました。購入された農機で作業が安全に行われるよう祈願し、初荷を見送りました。

組合員で構成する農機情報員やJA関係者ら22名が参加。新しい田植え機やトラクターなど10台の農機が、心待ちにしている組合員のもとへ一斉に出発しました。

JAの白水組合長は「今後も組合員に寄り添い、JAの信頼に繋がるよう努めてほしいです」と話しました。

家の光三誌・日本農業新聞「ご愛読感謝キャンペーン」抽選会



JA筑紫は1月12日、筑紫野市のJA本店で家の光三誌・日本農業新聞「ご愛読感謝キャンペーン」抽選会を開きました。JAの松田専務やJA女性理事、女性部役員ら12名が、応募総数1151件の中から350名の当選者を選びました。

例年2月に「家の光三誌・日本農業新聞購読者の集い」をJAと女性部で開いていますが、昨年同様新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、抽選会を行いました。

このキャンペーンは、購読者に日頃の感謝の意を伝えたいと企画したものです。

当選人数は、A賞の博多和牛が10名、B賞の季節の果物セットが10名、C賞の季節の野菜セットが10名、D賞の熊本人吉応援セットが20名、E賞の東北応援セットが100名、F賞のJA直売所「ゆめ畑」などで使える商品券が200名。当選者の発表は商品の発送をもって代えます。

次世代対策として出張ネイルサロン初開催



JA筑紫山田支店は1月28日に支店で、出張ネイルサロンを開きました。

これはJAが取り組む「ふれあい活動」の一環。次世代の組合員にJAを身近に感じてもらうため初めて企画しました。

太宰府市でネイルサロンを営む中島真由美さんを招き、組合員とその家族など4名がネイルアートを楽しみました。

山田支店の伊藤繁信支店長は「こうした活動を通して、次世代の組合員とのつながりを強化し事業利用の促進に繋がりたいです」と話しました。